

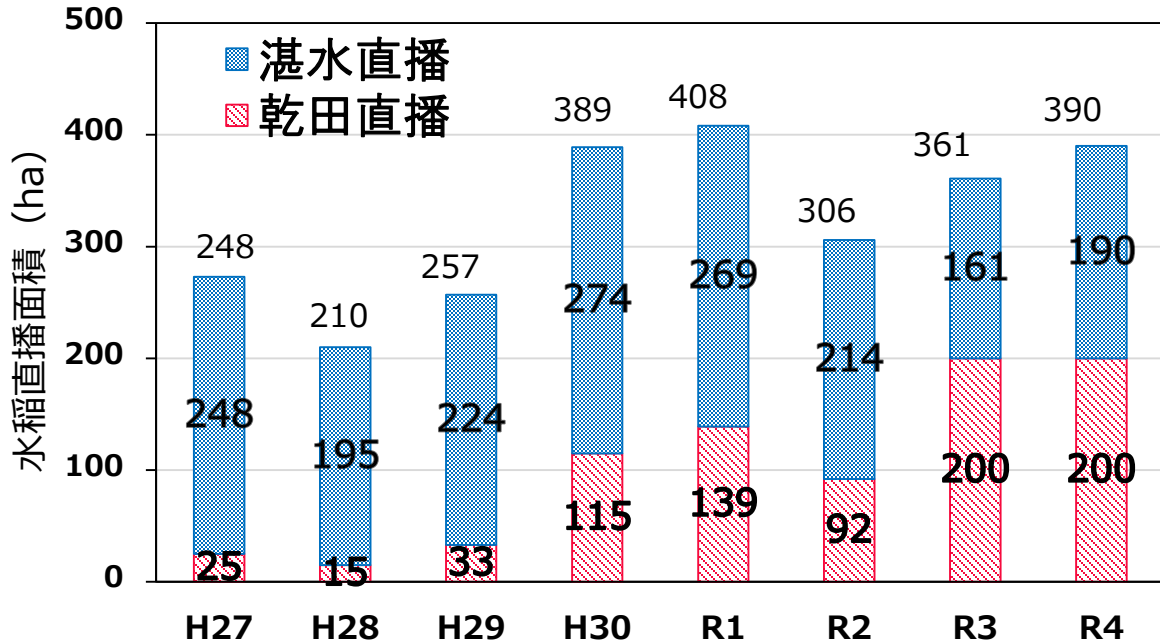
プロジェクト課題No.4
水稲乾田直播栽培の
技術定着による収量向上

活動期間：令和4年度～令和5年度

対象者：水稲乾田直播栽培実践農家3経営体（水稲乾田直播栽培勉強会メンバー16経営体）

チーム員：佐藤楓、八木沼湧太

1 課題の背景・ねらい



管内水稲直播栽培面積の推移（直播状況調査結果より）

仙台湾沿岸地域を中心に
乾田直播栽培の取組みが拡大

労働力
不足軽減

春時期の
作業分散

水稲育苗
に使う
ハウス数
の削減

その中で

- ・ 新たに取組みを考えている
- ・ 収量が確保できればさらに取組み面積を増やしたい

という声も...

課題

- ・ 移植並みの収量の確保
- ・ 他栽培事例の入手が困難
- ・ 意見交換する場がない
など

【定性的目標】

- 乾田直播栽培技術が定着し、移植と同レベルに収量が確保される
- 生産者間のネットワークが形成され、情報共有や技術交流が盛んに行われる

【定量的目標】

- 水稲乾田直播栽培における収量/10a（3経営体平均）
〈R3〉 487kg 〈R4〉 506kg 〈R5〉 530kg

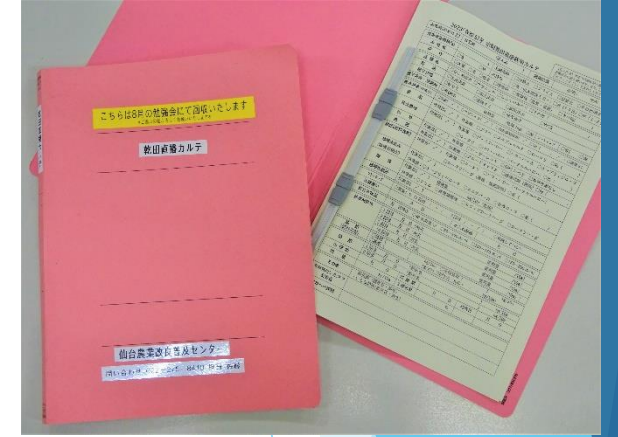
2 活動内容 (R4年)



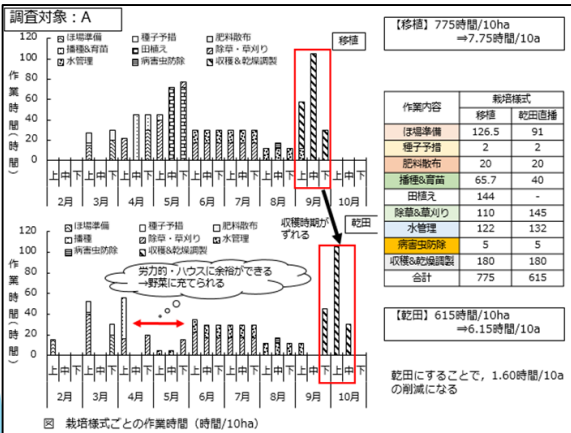
勉強会 (月1回) ・ 総合検討会の開催



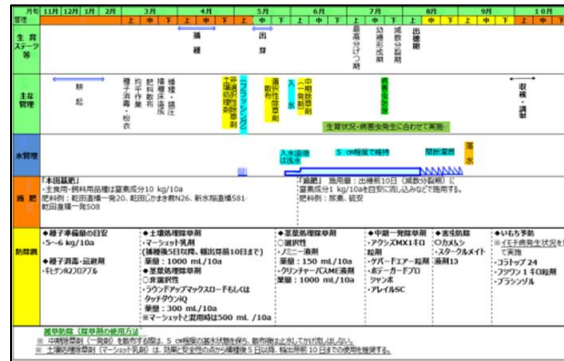
生育調査の実施
(勉強会等で情報提供)



耕種概要調査
(意見交換資料・課題の発見)



労働時間調査
(作業分散の実態を調査)



仙台湾沿岸地域の栽培暦・栽培手引き作成・配布
(協力：東北農研センター)



個別指導巡回
(勉強会のフォローアップ等)

2 活動内容（R5年）【水稻乾田直播栽培技術の向上支援】



苗立調査

○勉強会の開催

基本的な栽培技術について確認・今年の生育状況等の情報提供

○生育調査の実施

対象地域の主要品種（まなむすめ、ひとめぼれ、ササニシキ）

+ 今後普及拡大の可能性のある品種（金のいぶき）

○苗立調査の実施

対象3経営体含む13経営体20ほ場で調査（栽培管理の検討材料として使用）

○個別指導巡回

生育調査等の際に見られた雑草や病害虫の防除・追肥・雑草防除等



病害虫防除等の指導



生育調査の実施



東北農研センターが追肥や中干し等の指導（7月）



勉強会で耕種概要を説明する参加者（4月）

2 活動内容（R5年）【勉強会等開催による情報共有支援】

○勉強会の開催

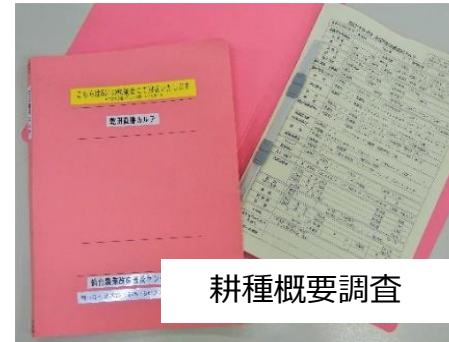
- ・ 各回異なるほ場 3 か所程度をまわり、生育状況や今後の管理について検討・意見交換

○先進地視察

- ・ 乾田直播栽培の盛んな石巻地域の法人を視察

○耕種概要調査

- ・ 勉強会の際に配布⇒意見交換時の資料
- ・ R4年に作成した栽培暦や栽培の手引きの改良



耕種概要調査



今後の栽培管理について意見交換



勉強会の様子（5月）



東北農研センターを招いての勉強会（7月）



勉強会（先進地石巻への視察）

3 これまでの活動成果


○苗立率・苗立本数の向上

- ・キヒゲンの使用、ほ場準備の見直し、一時通水の実施
⇒苗立率・苗立本数ともに向上

【R4 : 49% 86本/m² ⇒ R5 : 80% 143本/m²】

- ・苗立調査を行った仙台湾沿岸地域では、16/17ほ場(新規取組含む)で、いずれも100本/m²以上の苗立本数を確保


※苗立本数100本/m² : 今後の生育量を確保する上で必要となる目安のライン



苗立ちの様子

○雑草の適期防除

- ・剤の変更とイネの生育や雑草の状態を観察し、適期の防除を実施
⇒ R5は雑草の多発生は見られない




除草剤散布

R 4



ほ場の状態 雑草が繁茂

R 5



同生産者のほ場 雑草は特に見られない

3 これまでの活動成果

○基本となる栽培技術の定着

- ・適切な管理や適期作業が行われ、概ね順調な生育
⇒基本技術が定着してきたことで、
除草回数の削減のための水管理や施肥の削減の可否等、
意見交換の内容も変化している

○勉強会中・勉強会以外の活発な意見交換

- ・昨年から引き続き勉強会を定期的に行う
⇒参加者同士が積極的に意見交換できる場となった

○勉強会への新たな参加者

- ・勉強会メンバーの紹介で参加者に広がり
⇒R4までの勉強会メンバーの他に4名が新たに参加

○新規取組者への支援

- ・巡回+勉強会で普及協力員や東北農研センターから助言
⇒今後の栽培管理・次期作の栽培管理の参考に
⇒栽培に関する不安の軽減



意見交換中の様子



勉強会で除草剤散布のタイミングについて説明
(普及協力員：(農) 仙台中央アグリサービス 萱場理事)

4 今後の対応



R5今後の活動

- ・適期刈取りについて巡回指導
- ・対象3経営体と収量品質等についてR5成績検討
- ・総合検討会の開催（1月頃）
- ・R4作成の栽培暦・栽培の手引きの改良

栽培技術
向上

生産者間の
情報共有

収量の
高位安定



- 取組面積増加
- 新規取組者増加

園芸農家

- ・収益性の高い園芸作物の取組増加
- ・園芸作物と春作業が分散

大規模稲作農家

- ・育苗施設不足の解消
- ・春作業の大幅な軽減
- ・水稻面積増加への対応